

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370795

研究課題名(和文) 近世遊廓の構造とその社会的基盤

研究課題名(英文) The Structure of Yukaku and its Social Base

研究代表者

横山 百合子 (YOKOYAMA, Yuriko)

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授

研究者番号：20458657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、城下町江戸における新吉原遊廓の構造とその変化を、ジェンダーと都市の視点から動態的に明らかにするものである。遊廓内部では、役と特権に支えられた遊女屋が、私的契約と公的身分システムによって苛酷な待遇におかれた数千の遊女を支配していた。本研究では、そのような遊女屋と遊女との対抗的關係に注目し、遊女の抵抗が遊廓をめぐる社会を揺るがしていくことを指摘した。さらに、明治維新の身分制解体政策のなかで、遊廓についても身分制の解体政策がとられ、遊廓の近代化が進められる。以上より、本研究は、遊廓・買売春研究におけるジェンダーと都市という視点の重要性を主張するものである。

研究成果の概要(英文)：This research examines the structure and the transfiguration of the Red-light district so-called Shinyoshiwara Yukaku in the city of Edo through the dynamic relations of gender and city. In the Yukaku some brothels which owed their official duties controlled thousands of the prostitutes who were under repression and servitude by private contract as well as by the status system. As a result the abolition of the status system in the Meiji Restoration, the Yukaku changed into the modern system that suppressed prostitutes. As stated above, this research insists the viewpoint of gender and city is indispensable to the study of the prostitution in Edo.

研究分野：日本史

キーワード：新吉原遊廓 芸娼妓解放令 遊女 江戸 近代化 身分 社会的結合 ジェンダー

## 1. 研究開始当初の背景

数多い遊廓研究のなかで、近世社会史の構造的特質をふまえて遊廓を対象とするという分析視角をはじめて提起したのは、吉田伸之・塚田孝による遊廓社会論であり、本研究もその成果を出発点とするものである。しかし、遊廓社会論は、買売春をめぐる社会構造の解明という点で大きな成果を挙げてきたが、遊廓のもっとも基本的な構成要素である遊女自身については、当該の社会構造の重要な構成要素として然るべき位置を与えていないという問題を抱えており、その背景には、近世身分論研究が性差という論点を組み込みえていないという課題があった。これに対して、女性史研究の側からの売春史の到達点というべき曾根ひろみの「売春社会」論や宮本由紀子による遊廓研究は、実証的実態研究であると同時に、売春史の視角から私娼を含む近世の遊女の歴史的な性格とその主体性を汲み上げようとするものであった。しかし、そこでは、近世遊廓を近世社会の特質と関連づけて把握するという点での不十分さがある。また、90年代後半以降本格的展開をみたジェンダー史研究は、近世史研究におけるジェンダー視点の欠落を鋭く告発したが、具体的な性売買研究の成果という点では研究の途上であった。全体として、遊廓は、多くの関心を集めながらも、本研究の出発時点では、身分論・都市論、女性史、ジェンダー史のいずれにおいても十分に検討されていない研究分野であったといえよう。

## 2. 研究の目的

ジェンダー研究の成果をふまえるならば、遊廓は、近世城下町において政策的・人為的に設置され“生命の生産”から疎外され畸形化された労働が行われる社会組織であるということができる。本研究では、遊廓をめぐる社会構造研究としての遊廓社会論と、遊女自身を客体化せずその主体性を問う売春社会論の二つの成果をふまえつつ、ジェンダー論の提起する“生命の生産と再生産”という概念を援用して、歴史的主体としての遊女の実像と遊廓社会の構造解明を目的とした。

上記の研究目的の遂行のため、本研究では、幕末維新期の新吉原遊廓を分析対象とし、以下の5点を具体的な課題として設定した。

歴史史料としての「吉原細見」の可能性を追求する。

新吉原町と遊女屋による、遊廓の運営戦略を明らかにする。

遊廓を支える社会構造を、都市内部だけでなく、地方豪農層や幕府・大名・朝廷など政治的・宗教的・社会的権威との関係を視野に入れて解明する。

遊廓における遊女の生活、意識と行動を具体的に明らかにする。

以上～の解明により、近世遊廓の構造とその社会的基盤を遊女の視座から問い直

す。

## 3. 研究の方法

本研究では、研究史の到達点に学びつつ、以下の方法にもとづいて研究を進めた。

(1) これまで行われてこなかった新吉原遊廓をめぐる一次史料収集と分析を研究の中核に据える。具体的には、新吉原遊廓内部で生産された遊女屋、名主、遊女の作成した史料、新吉原遊廓と地方との関係を明らかにするものとして、研究代表者がこれまで調査をすすめてきた長野県須坂市教育委員会所蔵坂本家文書、中野市所蔵山田家文書など、江戸と地方の関係を示す史料、近世から明治期までの「吉原細見」、旧幕府引継書などの幕府史料、の4つの史料群の発掘と分析を柱とする。これにより、文芸作品などに依拠することの多かった新吉原遊廓研究を、研究資源の開発とその分析という歴史研究本来の研究方法に立ちもどって刷新する。

(2) 近世都市史研究におけるジェンダー視点の欠落という問題克服のため、ジェンダー論が提唱する“生命の生産と再生産”の概念を分析概念として重視し、ジェンダー概念の近世史研究への導入による研究の進展を図る。

## 4. 研究成果

歴史史料としての「吉原細見」の分析に基づき、明治5年芸娼妓解放令以降明治9年まで「細見」刊行が途絶し、その背景に、この時期が新吉原遊廓の衰微があったことを明らかにした。また、これらの分析から、「細見」の史料的価値を明らかにすることができた。その成果は、代表者による新吉原遊廓研究のどの論文・報告においても、もっとも基礎的な作業として位置づけられる。

新吉原町と遊女屋による遊廓の運営戦略を明らかにするうえで、国立国会図書館蔵狩野文庫の新吉原関係史料(新吉原五町名主竹嶋仁左衛門の「名主日記」などを含む)および、寛政7年に定められた「新吉原遊女町規定証文」が重要な位置を占めた。これらはいずれも身分論的分析が求められる史料であり、分析の結果、遊女屋と遊女の間蓄積され遊廓を揺るがしていく矛盾の具体的な様相や、そのような社会実態のなかでどのような男性遊客を対象に、いかなる遊廓の運営が企図されていたのかが明らかになった。

遊廓を支える社会構造を、都市内部だけでなく、地方豪農層や幕府・大名・朝廷など政治的・宗教的・社会的権威との関係を視野に入れて解明するという点では、代表者と分担者による5度の長野県での史料調査が重要な意義をもった。その成果は、代表者による学会報告第51回部落問題研究者集会全国集会・歴史分科会「遊廓と近世社会」、および論文「新吉原における「遊廓社会」と遊女の歴史的な性格 寺社名目金貸付と北信豪農の関わりに注目して」により発表した。こ

れらによって明らかになった豪農層の政治的・経済的ネットワークや農村における地域社会の実態、地方と江戸遊廓との密接な関係などは、遊廓研究にとどまらず、近世における都市(特に江戸)農村関係の分析にも寄与するものと考えられる。

歴史的主体としての遊女の生活・意識・行動を具体的に明らかにするという課題については、代表者「梅本記：嘉永二年新吉原梅本屋佐吉抱遊女付け火一件史料の紹介」(等により、その一端を明らかにすることができた。この成果は、遊女は売春婦か性的奴隷かという近代史研究等における二項対立的な議論を相対化する上で有意義なものである。さらに、社会構造をふまえた遊女自身による生き方の選択という視座から、近世近代を通して売春女性の主体性を論じることを可能にするものでもある。

以上 ~ の成果に基づき、遊廓と遊女の対抗的な関係、およびその間に生じる諸矛盾の視点から、幕末の遊廓社会の構造を動的に把握することができた。特に、江戸地方の関係をふまえて、動揺する幕末期の新吉原遊廓の地域実態に迫ることができたのは重要な成果であった。また、そのような社会構造のなかで、数名の遊女の生活と人生を復原できたことも、今後の研究において重要な役割を果たすと思われる。さらに、本研究を通して、遊客研究の必要性を確認できた。

また、本研究からは、遊廓・買売春研究におけるジェンダーと都市という分析視角の重要性を指摘することができる。近世における都市論・身分論・商人論の深化のためにも、ジェンダーの視点が顧みられるべきであり、これらは今後の新たな研究分野となる。この点に関連する成果としては、分担者牧原成征編『近世の権力と商人』山川出版社、2016、があり、代表者は「身分論の新展開」(歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題』大月書店、2016)を刊行する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

横山 百合子 芸娼妓解放令と遊女 新吉原「かしく一件」史料の紹介をかねて、東京大学日本史学研究室紀要別冊「近世社会史論叢」、査読無、2013、159-171

横山 百合子 新吉原における「遊廓社会」と遊女の歴史的な性格 寺社名目金貸付と北信豪農の関わりに注目して、部落問題研究 209、査読有、2014、16-54

横山 百合子 梅本記：嘉永二年新吉原梅本屋佐吉抱遊女付け火一件史料の紹介、国立歴史民俗博物館研究報告 200、査読有、2016、145-168

牧原 成征(Traduit du japonais par Yannick Bardy) La séparation entre la paysannerie et les guerriers - les guerriers-paysans d' Ōmi - " *Histoire, économie & société* " 掲載予定(巻号未定)

〔学会発表〕(計7件)

横山 百合子 "The Modernization of Tokyo and Diplomatic Relations : Focusing on The Release Act of Yujo", The Institute of Seoul Studies' 20<sup>th</sup> Anniversary and International Conference The International Symposium on "East Asian Capitals Research and Seoul Studies" 2013

横山 百合子 "Women and Networks in Nineteenth Century Japan" at the "A Financial Network of the Brothels in Edo; Focusing on the Shinyoshiwara Red Light District", Sophia University of Comparative Culture presents Symposium, 2013

同第143回総合女性史学会報告「幕末維新期の社会と性売買の変容 吉原細見・放火・芸娼妓解放令」、2014

横山 百合子 宮城歴史科学研究会 入門講座講演「女性史のおもしろさと難しさ 日本近世史の立場から」2015、東北学院大学

〔図書〕(計5件)

横山 百合子 「総論 明治維新と女性」・「幕末維新期の社会と性売買」明治維新史学会編/西澤直子・横山百合子編集『講座明治維新 9巻 明治維新と女性』、有志舎、2015、1-10、145-177

横山 百合子 The Yujo Release Act as an Emancipation of Slaves in Mid-Nineteenth Century Japan, Hideaki Suzuki (ed.), *Abolitions as a Global Experience*, 2016, Singapore: NUS Press(National University of Singapore), 161-198

牧原 成征 編『近世の権力と商人』山川出版社、「江戸城下における町人の編成と商人」、2015、3-37

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

横山 百合子 (YOKOYAMA, Yuriko)

国立歴史民俗博物館 研究部・教授

研究者番号：20458657

### (2) 研究分担者

牧原 成征 (MAKIHARA, Shigeyuki)

東京大学人文社会系研究科・准教授

研究者番号：20375520

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：